



蓮田・白岡地方ユネスコ協会

6月26日開催

第73回 日本ユネスコ協会連盟年次総会

— 臨時総会 10月1日に開催決定

今年度もコロナ感染予防の為来場は控えるよう要請を受けて委任状による事前議決権行使となり、当日はユーチューブ傍聴となりました。以下の議題が決定・報告されました。第1号議案2021年度事業報告と計算書類案、第2号議案 ACCU吸収合併に係る定款等の改定 報告事項として2022年度事業計画及び収支予算。尚、5月予定されていた第54回評議員会は開催中止となり連盟の年度活動方針や事業計画内容は書面報告となりました。国内における平和構築活動と海外における平和構築活動にわけた事業内容・事業の概要が提示されました。国内活動で取り上げられたテ

ーマは「子供教育支援・地域遺産世界遺産の保護保全、啓発・多文化共生促進・地域草の根促進・普及広報と財務強化」です。海外活動では「途上国における教育支援・途上国への医療食料支援・世界遺産保護と保全支援」が取り上げられています。次に「定款見直し」で理事・評議員の「選出方法と定数の削減が可決されました。理事は議論可能な適正人数とすべく26名から20人程度とする。評議員は都道府県単位で原則1名以上（県内団体会員数、所属会員数により算定）埼玉県は1団体以上9団体以内で定数1名となります（従来はブロック内選挙で選出されていた）全国的には

見直し後136名から97名。また理事に關しての選出は、ブロック全体の投票による選出という事なので、知らないもの同士が如何するか迷う事も想定されます。次に、鈴木理事長からACCUとの合併は内閣府が関与する案件なので、手続き上、まず合併承認の申請書が求められると同時に、申請書自体も「日本ユネスコ協会連盟会員の承認」が必要との事で「臨時総会を10月1日に開催」が決まりました。更に3月にも臨時総会を予定する旨発言がありました。ウクライナ募金に關しても6月20日現在7939万7621円集まり支援物資の形で送金させて戴いている謝意がのべられました。報告事項として連盟内人事で関口事務局長が退任し後任の事務局長は尼子美博氏が昇格・就任する旨各々が挨拶されました。了

埼玉県ユネスコ連絡協議会総会報告

書面による議決権行使

2022年度の埼玉県ユネスコ連絡協議会（7つのユネスコ協会）の総会は、会長を務めるさいたまユネスコ協会本多隆会長より当協会に4月18日に議案が郵送されてきました。議案は通常の第1号議案2021年度事業報告、第2号議案2021年度決算報告、第3号議案2022年度事業計画、第4号議案2022年度収支予算案、当協会では同協議会の役員を務める田村会長及び熊倉顧問が前記議案に賛成の回答を行いました。5月2日に本多会長よりメールにて県内ユ協から議案の承認を得られたとの報告がありました。なお、2022年度の計画として、9月及び来年3月の理事会開催及び11月26日に千葉県木更津市で全国大会及び関東ブロックユネスコ活動研究会が予定されています。コロナ禍Zoomによる理事会などが開催出来る日が待たれるところです。

2022 活動方針

会長 田村勝彦



一昨年は「オンライン推進チーム」を結成してコロナ禍・ズーム利用に堪える体制の確立を目指し努力して来ましたが、昨年度は、実際の活動が広報書面やHPに正しく反映されているか否かの検証を致しました。具体的には「HP改訂委員会を設置」し、その過程で「私たちの活動」の現況とそれに整合した表示を作成致しました。この結果10数年改編しなかつた広報用の「私たちの活動」表と「HP」が新しくなりました。今年も、憲章理念の更なる推進をめざす具体策は、総会資料「活動方針」に報告した通りお祈り申し上げます。

りですが、活動の主体は教育とし、「国際文化スタディ」や「地域文化スタディ」、「学校支援協力活動」等を通して、あらゆる視座から青少年や市民に学びの場を提供する事に重点を置きたいと思えます。併せて会員が楽しく憩える場も作りたいたいと思えます。特に今年度は当協会「設立15周年記念事業」を予定しており、この貴重な記念事業も活用して前記の普及・実践の効果に相乗効果があげられるように工夫をしたいと考えております。皆様方の忌憚らないご意見を期待しております。とともに、今後とも変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。末筆ですがコロナ、異常気象などに留意されご安寧を心からお祈り申し上げます。

寄稿

学生時代・ユネスコへの僻地へ行く

小杉正孝(会員)



私は十数年前に会員になった東京板橋区在住の者です。健康上の課題から蓮田白岡地区の行事に殆ど参加できず失礼しております。ユネスコは国連の、教育、科学、文化に関わる機構なので、私の人生経験と重なる部分や関心もあり入会しまし

た。生まれ育ちは東京の西巣鴨で、当時は巣鴨プリズンの広大な敷地の留置施設が近くにあり(現在のサンシャイン60付近)、そこを進駐軍が管理しており、当時少年だった私達の「ギブミーキャンデー」の叫びに込めて米兵が外国製駄菓子や鉄条網の柵越しに投げ

てくれました。時々通るキャデラック等の高級車にも目を見張りました。広大な蹴球場では時々軍楽隊の演奏や行進があり金網越しに見物し興奮し、外国への憧れも強く

横断したとの報道に触れ、度肝を抜かれまして。自由は外国に行けない時代故に、法的には密航しながらの大きな夢を実現させた人に感銘と大きな刺激を受けまし

た。私は学生時代に自分の学業の傍ら児童文化研究部と言うクラブに所属していました。日本の子供達が置かれた諸問題に目を向け、子らに寄り添いながら地道な奉仕(実際には人形劇、紙芝居、童話、ゲーム、歌等)をセ

ットにし「こども会」という形で僻地や小児病院などに出向き活動してました。私は常々、「海外にも目を向けるべき」と部内で提案していましたが、反対されました。そこで私は卒業の半年前に単独で、外国の貨客

船に乗り、限られた日程と懐具合を考慮しリュックに指人形や紙芝居、日本の子供たちの描いた絵や折り紙、作文等を詰めファイリッピンをめざしました。首都マニラに着くと反日感情が強く「日本人だ! やっつける」等、罵声や、石つぶてが飛んできました。しかしヒッチハイクで向かったルソン島北部山岳地帯のベン

グット州では7つの学校で「こども会」を実施することができました。日本から突然やってきた私に先生方も子供達も大きな関心を示してくれ、毎回こども会の最後に設けた「質問タイム」では戦後日本の急成長の理由、東京五輪の成功、新幹線や児童の環境等の質問があり、私自身も外から日本を見つめ直し多くを学ぶ良い機会となりました。地方新聞の記事にもなり、それが元でラジオ放送にも出演しました。

帰国後学業を終えてメーカーに就職し37年間務めました。その間11年をインドネシア、アメリカ、タイの3か国に家族帯同で駐在し、外国の方々と生活や仕事

を通じ苦楽を共にしてきました。定年後は、複数の大学で「異文化経営」の講師、海外派遣者への研修や日本語講師もしてきました。モットーは「相手の立場に立ち物を見、寄り添って共に生きる」です。了(小杉正孝氏略歴 大学卒業後、大手自動車メーカーに入社。11年間海外勤務を経て本社勤務後関係会社で社長歴任退職後は大学講師となり現在に至る。



山口京子新市長表敬訪問

5月に蓮田市長に就任された山口市長をお訪ねいたしました。田村会長より祝意を申し上げ、当協会の現況もご報告して今後ともご指導賜りますようお願い致しました。地域文化遺産スタディや国際文化スタディのご臨席もお願いいたしましたところ終始和やかに私も会員ですから・・・と仰って下さいました。



学校支援協力活動報告

12月15日 水 蓮田市立黒浜小学校

タンザニアでの経験を語る

講師 蓮田市出身 JICA 協力隊員 谷直紀氏

同校 体育館に於いて6年生(68名)を対象として講演を開催した。目的は地元で活躍する方から、自らの体験を通じたグローバル視点からのお話を伺うことにより、持続可能な教育SDGsを実現することとして、子供たちが地球環境や世界の貧困問題等について学ぶ機会とするもので松本直太校長から当協会に上記要請を戴きました。お馴染みになりましたが地元蓮田南小学校ご出身で青年海外協力隊OB、谷直紀講師をご推薦、ご了承戴きました。(青年海外協力隊とは日本国政府が行う政府開発援助(ODA)の一環として、外務省所管の独立行政法人国際協力機



構(JICA)が実施する海外ボランティア派遣制度 講演は赴任先タンザニアの経験を基に、ユーモアを交えてのお話でした。SDGsについて解説され、将来生徒皆さんの指針のお役に立てばとのお話で結びました。講師からの質問には生徒全員が手を挙げ盛り上がりました。

日本ではペットとして家族同様に犬を飼う人が多いと聞きますが、これはインドネシアバリ島の我が家に飼われている愛犬クロの話です。クロは大型犬ドットワイラーです。我が家には8頭もの犬たちがいた時期もありました。その世話は主に若いボーイたちの担当です。犬たちも番犬として課された役目をしっかりと果しています。我が家では夜、門が閉まった後から翌朝までは犬たちの鎖を外し放し飼いにします。犬たちを自由に健康を守るためにもありますが、番犬としての彼らの本来の役目という点では、放し飼いに意味があると思うからです。

ある深夜、「キャン!キャン!」という、つんざくような異様な鳴き声で飛び起きました。そのあと特に変わった様子もないので私は再び寝入ってしまいました。翌朝、若いボーイたちが不安そうに言います。「クロがお座りの姿勢のまま立ち上がることも歩くこともできない」と。昨夜の鳴き声はこれだったのかと、私は急ぎ獣医師に診て貰うようボーイたちに伝えました。

獣医師の見立ては「リ

寄稿

愛犬クロの物語

法人会員ラマツアーズ代表 万亀子・イスカンダール氏

ユーマチでは「このこと。犬のリユーマチ」を私は初めて知りました。クロの様子かが

ら、改めてレントゲン設備のある別の獣医師へ行かせました。結果は「尾? 骨がズレている」と。クロが動けない本当の理由を知り大変慌てました。残念なことですがバリ島には犬の接骨院がありません。後日判明したことです。クロは仲間

はこうです。庭の椰子の木の中から役に立ちそうな2本を選び木と木の間に綱を張りました。彼らが張った綱の高さは、痛めたクロの後ろ足が地面に着くか着かないかの絶妙な高さです。一方、クロの首輪には別の輪っかを取りつけました。設置した両端間を根気よくクロを往復させること1日数十回。ボーイたちの必死な世話が続きました。

このリハビリが功を奏し、果たしてクロはついに歩けるようになったのでした。クロが快復したことは、私にとっても本当に嬉しいことでした。我が家の若者たちを誇らしく感じた出来事でもありました。それにしても、彼らが持ち合わせていたものは、ただクロへの愛情と、再び歩けるようになって欲しいという熱意と、自然豊かで人情溢れるバリ島の生活が培った智慧だったと思われ、クロは見事に回復しました。クロは今も仲間の犬たちと我が家を守ってくれていま



愛情深い我が家のボーイたちが編み出した、愛犬クロのリハビリの方法とその施設?

当協会では地元の郵便局に書き損じ箱設置し、カンボジア、ネパール、ミャンマー他の現状、そして回収枚数と協力お札を毎月掲示しています。教育機会に恵まれない青少年・少女が読み書き計算の基礎学力に加え社会問題等のリスクを正しく知り行動出来るのも書き損じハガキ1枚の協力からと思います。

書き損じハガキにご協力を

PC、スマホの普及と共にハガキ・手紙の利用度が下がり、そして活字離れも進み年賀状販売枚数は減少している近年ですがユネスコ連盟集計(2020年12月~21年10月)では各協会・団体の協力により112万枚以上(約5291万円)ありました。「ユネスコ世界寺子屋運動」はマイケルジャクソン氏が多額の資金を寄付し、「学ぶ機会に恵まれない途上国の子供達の為に」という言葉から、この寄付を原資として1989年、草の根の識字運動として始まり30年になります。2020年度寺子屋の識字教室、職業訓練等の教育活動で6071人が学びカンボジアでは新しい寺子屋も完成しました。

会員紹介

執筆者 今までの歩み、ユネスコ活動への抱負 (敬称略)



鈴木寿彦(すずきとしひこ) さいたま市西区在住 この度、顧問の熊倉さんから紹介され蓮田・白岡地方ユネスコ協会に入会を申込みました。私は茨城県出身。縁があり、ここ白岡で2019年に屋根や外壁の塗装、内装リフォームを主に手掛けるサワデイハウスを創立しました。社名の通り東南アジアに在住の経験もあり環境には興味がありました。私に出来る事として、環境に優しい塗料をお客様に提案することです。小さな取組がコツコツ積み、大きな取組に繋がるようにこんごも出来る事にチャレンジしていきたいと思えます。どうぞ宜しくお願い致します。



上島勇夫(かみしまいさお) 現在住所さいたま市見沼区在住生まれは世田谷区です。会社をリタイアして10年、月に2〜3回ゴルフ、ドライブ、水彩画、楽器(ケーナ)演奏と遊びに趣味に明け暮れて来ました。今年はいよいよ後期高齢者の仲間入り。人生の最終コーナーを迎え、ボランティア活動に参加。近くの公園で毎朝50名前後で行っているラジオ体操のスタッフとなり、田村会長と出会いました。会長から蓮田・白岡地方ユネスコ協会の立ち上げの苦労や大病の経験等のお話を伺い、以前から関心のあったユネスコ入会をお願いしました。若いころから歴史が好きでしたので、地域文化遺産スタディや文化遺産めぐりに参加させて下さい。宜しくお願い致します。

2022年度当協会第15回定時総会報告

書面による議決権行使方式

今年度もコロナ禍で見通しが難しいなか、昨年同様「書面方式にて開催」となりました。4月に賛否を問うハガキを会員に送付、5月20日まで議決権行使による議案審議を行って会員数58名中44名回答があり、第1号議案から第5号議案まですべて原案通り承認されました。否認は1号4号議案に各1件

(1) 当協会への謝意・期待・応援13件 (2) 当協会への提言・指摘4件 (3) 行事参加や会報期待など5件

4件の提言・指摘に付①「返信なしを承認とするのは疑問」とのご指摘に対しては、ハガキ文中に「期日までに返信無い場合はご承認扱い」との断り書きがある。②「2回の会報発行の内1回に会員動向を記載したら如何」との提案については次回会報で扱う。③「総会議案以外の議案の受け皿の考慮は如何」との問いには自由記入欄の活用

2022年度役員構成

会長	田村勝彦
副会長	飯島 剛
理事	平賀栄美子
理事	山本二三男
理事	牛山あやの
理事	江原泰子
理事	柴山利幸
監事	齋藤隆宗
顧問	福地光男
顧問	熊倉 晃
observer	向山裕規



熊倉 向山 江原 柴山 山本 平賀 田村 飯島

新任理事挨拶

ユネスコ活動の抱負 江原泰子(えはらやすこ)

児童福祉に携わっておりますが、コロナ禍の影響でしょうか。昨今、受身の子どもが多く、興味

設立15周年記念講演会(兼第13回国際文化スタディ)予告

「幸せなら手をたたこう」

— 作者・木村利人が語る「名曲誕生の秘話」 —

開催日時場所：調整中

講師：早稲田大学名誉教授

木村利人氏(きむらりひと)

・バイオエシックス(生命倫理学)の世界的権威

<略歴>

世界各地の大学で教鞭をとり、ジョージタウン

大学ケネディー倫理研究所アジア研究部長、恵泉女学園大学学長など

歴任され、日本生命倫理学会会長、厚生省委員、東京都病院倫理委員

会委員長など歴任。

・著書に「いのちを考えるーバイオエシックスのすすめ」、同志社大

学深田名誉教授との共著「ボクたちは軍国少年だった!」等

対象者：会員、小・中学生・高校生・大学生、一般市民

参加費：無料

後援機関(予定)：蓮田市・蓮田市教育委員会、白岡市・白岡市教育委員会、(公益社団法人)日本ユネスコ協会連盟、埼玉県ユネスコ連絡協議会等



ある事だけに目を向け、他人に興味を示さないことが心配になることを感じます。AI時代、未来予想図が立てられない時代に教育、学びの進化もしています。変化に対応できる力、「生きる力」を育むために、私たち地域コミュニティの一員として、今、私たちができること」を考え、情報発信していきたいらと思っております。そのため戦争を知らない私たち世代に先輩方々からの貴重な体験談、歴史を語り継いで

戴く企画を考えています。

訃報お知らせ

永年、会員として活躍されました3名の方の訃報をお知らせ申し上げます。

御尊名

●野上俊明(享年79歳)

●齋藤恵美子(享年79歳)

●矢上匡孝(享年86歳) 皆様と共に慎んでご冥福をお祈り申し上げます。(合掌)